

トマトの奥深い「旨み」を追求する農園です (赤磐市 橋本農園)

農業

林業

水産業

関連産業



(ミニトマトの生育状況を観察する橋本さん)



(高糖度ミニトマト「トマデリッシュ」)



【経営規模】

- ◆ 栽培面積：トマト20a
(大玉トマト7a、ミニトマト13a)
- ◆ 労働力：家族2名、パート6名(常駐)

【取組の経緯】

- ・橋本農園は、約50年前に花き農家として開業
- ・約9年前に、花きの販売量が減少したため、
 - ・販売単価が高く、安定した収入が見込めること
 - ・既存のハウス施設が活用できることから、トマト栽培を開始

【取組の概要】

- ◆ トマト栽培へのこだわり
 - ・橋本農園が目指すトマトは、新鮮でパリッとした皮と果肉の歯応えと果汁の甘みに加え、深い「旨み」が感じられるもの
 - ・トマト栽培は非常に繊細で、些細な条件の違いが食味に影響するため、様々な栽培方法について試行錯誤を重ね、甘み、旨みを増すための栽培方法を探求
 - ・現在、ポットにトマト一株ごとを独立させ、日々、センサーで水分量を1滴単位で管理。必要最小限の量でトマトにストレスをかけ、厳しく育てることで、糖度を向上。さらに、温度、湿度、ミネラル分にも常に気を配り栽培
- ◆ 販売の特徴
 - ・収穫・出荷が始まる8月下旬から翌年の1月までの間は、県内の市場や地元直売所へ出荷。一方、春先の2月頃から、糖度計による糖度の確認及び試食により、甘み、酸味、旨みのバランスが取れてきたと判断したものを高糖度ミニトマト(トマデリッシュ)として、全国の百貨店や高級スーパーに出荷。併せてインターネットでも販売
 - ・トマデリッシュは、パンフレットと専用箱のデザインを専門家に依頼し、商品価値をアピール
- ◆ その他

橋本農園の「トマデリッシュ」は、令和4年4月、一般社団法人日本野菜ソムリエ協会が主催した「第1回全国ミニトマト選手権」において、最上位の最高金賞を受賞

【橋本農園 橋本一樹代表からのメッセージ】

- ・生産量にこだわらず、できるだけ農薬を減らした食味の良いトマトを作っていきたい。
- ・「トマデリッシュ」のように付加価値を高めた商品を生産し、販路の拡大を目指したい。



【お問い合わせ先】 橋本農園
赤磐市斎富294
TEL：080-1900-1700

